

第7章 活用

7-1 活用の方向性

活用については、基本方針「史跡大安寺旧境内の魅力を高め、交流・学びの拠点として活用する」のもとに、以下の5項目を柱として取り組む。

○ 史跡の価値や魅力を分かりやすく伝える

地域住民等をはじめ、国内外からの多様な属性の観光客、歴史や文化財等の専門家などのさまざまな人々が、それぞれに史跡大安寺旧境内の価値を理解でき、魅力を感じられるような活用を行う。

○ 活用のための整備を計画的に推進して、さまざまな活用を展開する

多くの人々が安全で快適に過ごせる環境づくりや史跡の価値の理解を助けるための整備などを実施し、日常的な憩いや学習から、観光やイベントを含めたさまざまな方法で、史跡を活用する。

※「整備」については第8章で詳述する。

○ 史跡を教育・学習の場として積極的に活用する

史跡を舞台とした郷土学習や歴史教育等を積極的に実施するなど、史跡の保存・活用や地域づくりに対する意識向上、次世代の担い手育成に資する史跡の活用を行う。

○ まちづくりの一拠点として効果的に活かす

観光ニーズや地域課題等を踏まえた活用方法を継続的に検討し、史跡大安寺旧境内の周辺地域における観光振興や活力あるまちづくり、さらには、未来へつながる人づくり・地域社会づくり等に対して、効果的な機能・役割を担う拠点として活用する。

○ 多様な主体と連携・協働して継続的に活用を行う

史跡大安寺旧境内について、その歴史や遺構・遺物等について適切な情報を提供し、地域住民等をはじめとした多様な主体の理解を深め、協働による魅力向上の仕組みや体制を整えながら、継続的な活用を行う。

7-2 活用の方法

(1) 史跡の価値等を学び、理解するための活用

ア 学校教育・生涯学習等との連携

- ・大安寺小学校をはじめとした市内の小・中学校等における学校教育カリキュラムと連携し、平城京における大安寺の重要性等についての適切な教育を行い、子ども達の大安寺旧境内の価値に対する理解を深めるとともに、地域に対する誇りや愛着の醸成につなげる。
- ・「奈良ひとまち大学」をはじめ、講演会・シンポジウム、町歩きや住民参加型のフィールドワーク・ワークショップなどの市内で開催されているさまざまな生涯学習に関わる活動や、自治会・大安寺等の地元の行事とも連携し、史跡大安寺旧境内を訪れ、その価値や特質、それに関わる地域の成り立ちなどを学び、理解できる機会を増やす。

イ 史跡に関する的確かつ最新の情報の発信

- ・活用の推進にあたっては、史跡大安寺旧境内に対する正しい理解と認知度の向上が重要であることから、インターネット等を利用した情報の発信や解説パンフレット等の作成を進めるとともに、継続的な調査の成果等に基づき、定期的に情報の更新を行う。
- ・地域住民等をはじめとした多くの人々が史跡大安寺旧境内の価値を認識し、理解するための情報に加え、歴史・文化に精通した人々や専門家等がより深い知識を得るための詳細な情報についても積極的に公開していく。

ウ 発掘調査の公開並びに調査成果の公表

- ・発掘調査の様子を公開し、史跡の価値をより多くの人々に理解してもらうとともに、発掘調査体験イベントなどを継続的に実施するなど、史跡と積極的に関われる機会を提供することにより、史跡に対する誇りや愛着を高める。
- ・発掘調査の成果については、現地説明会の開催、調査報告書や概要資料の発行、インターネットでの公開などのさまざまな形で公表・発表する。特に、地域住民等に対しては、必要に応じて別途説明会等を開催したり、各戸に概要資料を配布するなどにより、調査成果の報告をきめ細かに実施する。

エ 現地での解説の充実

- ・史跡大安寺旧境内を中心とした観光・散策ルート（図 7-1 参照）を踏まえた説明板や案内板の設置や将来的なガイダンス施設の整備などの施設整備や観光ガイド等の育成などに加え、多言語解説や音声ガイドなどにより、さまざまな属性の人々に対応できる現地解説のための施設や体制の充実を図る。
- ・史跡大安寺旧境内は、往時の建築物等は現存せず、遺構の大半が地下に眠り、一部区域は市街化していることから、その価値や魅力が理解し難い。このため、ARやVRなどの最新の科学技術を活用して視覚化を図るなど、現地において史跡の価値や魅力を理解できる仕掛けづくりを継続的に検討する。

(2) 地域住民等の憩い・交流の場としての活用

ア 地域住民等による日常利用

- ・史跡南部の塔院や花園院・倉垣院推定地の区域については、花畑や広場空間として維持・管理するとともに、ベンチ等の必要な便益施設等の整備を行うことにより、広い空間と豊かな自然を活かした地域住民等の憩い・集いの場や子ども達の遊びの場として活用する。

イ 地域活動の場としての活用

- ・大安寺小学校による大安寺旧境内での米づくり体験学習の継続的な実施や自然環境を含めた地域に関する学びの場とするなど、子ども達が史跡と触れ合える機会を増やし、史跡の保存・活用の次代の担い手育成につなげる。
- ・史跡の価値や魅力に気づき、誇れるよう、地域住民等が中心となった情報発信の方法も検討し、さまざまな人々が集い、交流しながら、人づくりやまちづくりに資する活動等を展開する。
- ・史跡南部の塔院や花園院・倉垣院推定地の区域については、民間活力を活かしたイベントを定期的に開催し、地域内外の多くの人々が集う、交流の場づくりを進める。

(3) 観光資源としての活用

ア さまざまな方法による観光情報の発信

- ・奈良市観光協会ホームページやSNSなどのインターネットでの情報発信、観光パンフレットや史跡ガイドパンフレットの作成・配布などに加え、旅行雑誌への掲載や観光業者・交通機関とのタイアップなどのさまざまな方法により観光情報を発信する。
- ・史跡大安寺旧境内の価値や周辺の文化財等の観光資源と一体となつてつくり出される環境の価値を複数の歴史・文化のストーリーとして再編し、多様なニーズに対応した魅力的な情報として発信することで、多くの人々の史跡への来訪・再訪を促す。

イ 観光資源としての活用に必要な環境整備の推進

- ・多様な人々の活用を想定した上で、観光資源としての活用に必要な学習施設や休憩・便益施設、安全管理施設などの施設整備を進める。
- ・観光客の増加等に伴って生じるおそれがある課題等について、地域住民等と協議して対応策を検討するなど、観光客の受け入れ態勢の充実を図る。

ウ 季節・時期や区域ごとの多様な魅力の創出

- ・史跡大安寺旧境内の価値を踏まえ、豊かな歴史や文化を感じられる環境を活かしたさまざまなイベントを開催し、地域住民等や観光客をはじめとした多くの人々が大安寺の歴史や文化に親しみながら楽しみ、集い、交流できる場として積極的に活用する。なお、活用にあたっては事前に防災・防犯に関する方針・方策を検討する。
- ・豊かな自然がつくる日常的なゆとりと落ち着きのある環境とイベント開催時における賑わいの形

成、また、四季折々の魅力を感じられる八幡神社の社叢と塔院地区の花畑、花園院・倉垣院推定地の広場空間、北部市街地の歴史的な風情漂う町並みなど、季節・時期、史跡地内の各区域に多様な魅力を創り出し、何度も訪れたいと思われる史跡環境を整える。

エ 関連する文化財や観光資源等との連携

- ・京奈和自動車道（大和北道路）の（仮称）奈良インターチェンジやJR関西本線の新駅の設置などに伴う観光動線の変化や史跡周辺環境の変化等を踏まえ、史跡周辺地域を含めた周遊観光のためのルートを検討する。
- ・市内で活動する観光ガイド団体等との連携を図りながら、史跡大安寺旧境内と周辺の文化財等の観光資源とが織りなす歴史・文化のストーリーをもとに、「大安寺遺跡探訪ツアー」など、さまざまな観光ニーズに対応したツアー・イベントを開催する。
- ・史跡大安寺旧境内からの出土遺物の展示など、史跡の遺構と遺物をつなぎ、より一層魅力的な観光資源として活用できる方法を継続的に検討する。

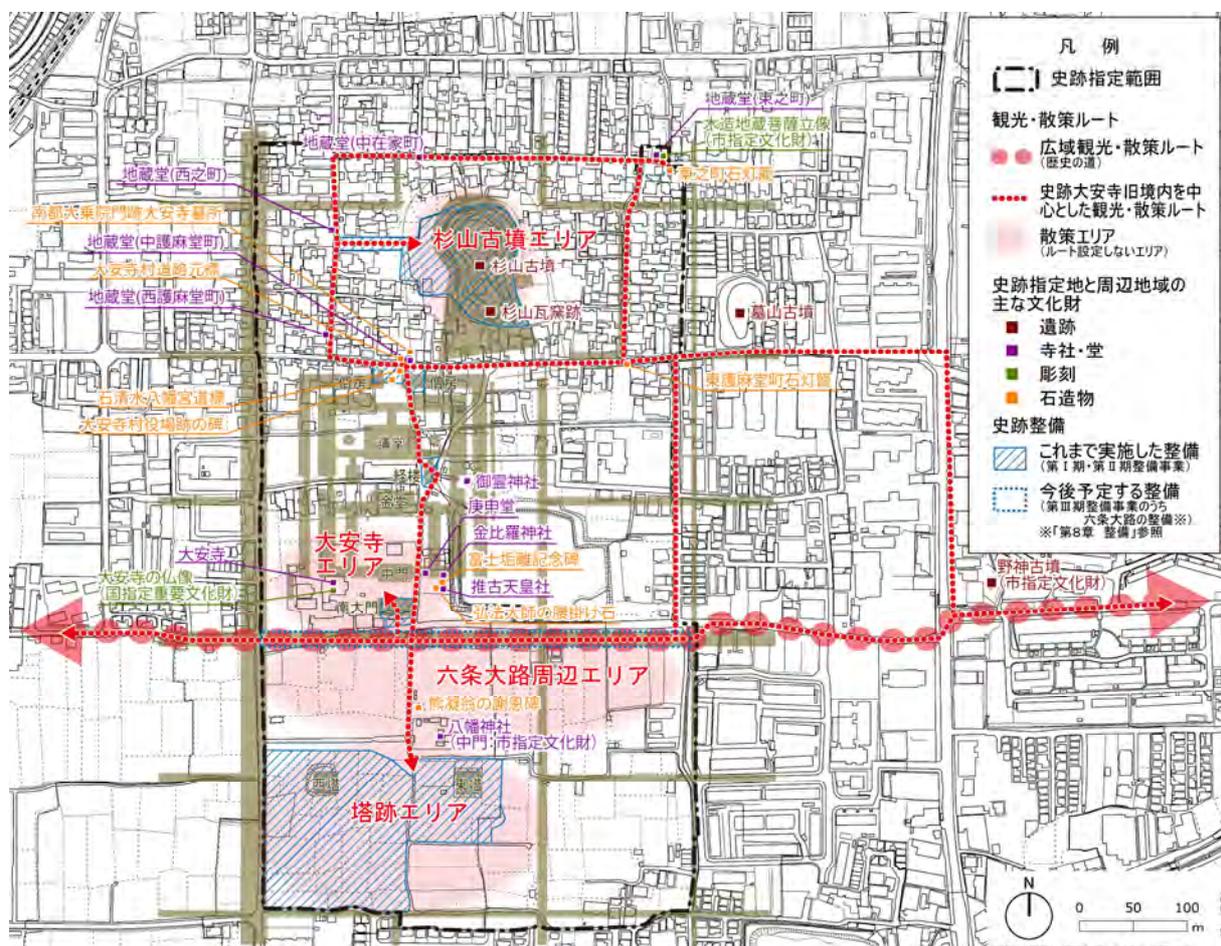


図 7-1 史跡大安寺旧境内を中心とした観光・散策ルート